

はじめに

家畜ふん尿処理は、堆肥舎やスラリーストアといった高額な施設を必要とし、大きな負担が伴うと考えられています。

道立試験場では、「家畜排せつ物法」の管理基準に適合し、低コストで、自分でも整備可能なシートを利用したふん尿の貯留施設の研究を進めてきました。

ここに示した施設は、あくまでも管理手法の一事例として、基本的な構造や作り方を提案したものです。

堆肥舎に比べて、必ずしも作業性が良い施設とは言えません。

本施設は低コストに設置できる施設であるものの、利用にあたっては課題もあります。

その問題点や欠点を指摘、批判して終わるのでなく、どのように改善工夫することでより良い施設となるか、知恵を出し合うことが必要と考えます。

道内では、これまでも数多くのふん尿処理施設が整備されてきましたが、なかには堆肥舎を整備しても、切返しが十分に行われていないため堆肥化が進まず、単なる貯留施設となっている事例も見られ、そうした農家の管理や利用実態を考えると本施設でも十分に対応できるものと考えられます。

部分的にコンクリー資材等と組み合わせ、より作業性を良くすることや、既存の堆肥盤の管理・利用への応用や、補完的に利用することも考えられます。

それぞれの経営、ふん尿の処理利用体系、利用方法などを考え、地域において、畜産農家みずから工夫を行うことにより、より実用的な施設になると考えます。

目次

シート利用ふん尿処理施設	2
I 施設的设计	3
II 造成法	5
III 施設の管理	12
シート利用スラリー・尿貯留施設	13
I 施設的设计	13
II 造成法	14
III 施設の管理	16
現地事例	17~31
自作接続部品の作り方(例)	32